

精神科

診療科の紹介

八幡病院精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んでつらい人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応障害、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といっても一人ひとり症状も治療法も違ってきます。したがってその人に一番良い治療法を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア(コンサルテーション・リエゾン精神医学)を主な業務としています。

外来では予約がなくても診ていますので受診者数は日によってばらつきがあります。そのため場合によっては思いがけずお待たせすることもあります。

取り扱う主な疾患

統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、不眠症、適応障害、など。

当科の特徴

令和2年6月もの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療が出来るよう努めています。下記に認知症の画像診断を紹介しています。

■VSRAD検査

MRI検査です。早期アルツハイマー病では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値(ボクセル値)へ変換した後、健康人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽に出来るようになりました。早期アルツハイマー型認知症の診断に役立ちます。

■脳血流シンチ検査

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行う検査です。脳の血流分布の異常を調べることでMRIだけでは判断出来ない認知症の鑑別に役立ちます。

■ダットスキャン検査

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドーパミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

令和4年度 診療実績

初診患者数	132人
再診患者数	2,697人
入院患者のコンサルテーション	507人
紹介患者	74人
逆紹介患者	51人

医師紹介



精神科主任部長
白石 康子
しらいし やすこ